

|         |  |
|---------|--|
| RACE    | 2023 AUTOBACS SUPER GT Round5 SUZUKA GT 450km RACE |
| DATE    | 予選：2023年8月26日 決勝：2023年8月27日                        |
| CIRCUIT | 鈴鹿サーキット（三重県）                                       |
| WEATHER | 予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ/ドライ                                |
| RESULT  | 公式練習：8位 予選：8位 決勝：7位                                |

夏休み最後となる8月26、27日に鈴鹿サーキットで開催されたSUPER GT第5戦。今シーズン後半戦の初戦となる一戦で、予選8位からスタートを切ったチームクニミツのNo.100 STANLEY NSX-GTは、7位入賞の結果を手に行っている。



## ◎予選日：

前大会から今回の鈴鹿戦までのインターバルは僅か3週間。今シーズン、鈴鹿で2度目となる450kmレースを前に、チームでは万全の体制で臨むべく、慌ただしく準備に追われた。

サポートレースでアクシデントがあり、スケジュール進行が5分遅延。公式練習は、午前9時20分にスタートした。気温33度、路面温度39度の中、各車が続々とコースへ。No.100 STANLEY NSX-GTには山本尚貴選手が乗り込み、持ち込みのセッティング確認からセッションをスタートさせる。

なお、もうひとりのチームドライバー、牧野任祐選手は1週間前の全日本スーパーフォーミュラ選手権第7戦もてぎの決勝レースにおいて多重クラッシュに巻き込まれ、負傷。インパクトある大きな事故だっただけに、大事に至らなかったのは幸이었다。結果として、今大会の欠場は免れることになったが、一部の走行セッションを見送ることに。これに関しては、レースウィークを前にチームがリリースを発表。日曜のみ走行を行うことを明らかにしている。よって、公式練習および予選は山本選手のみ出走となったが、チームは一丸となって、ベストを尽くそうと一層気を引き締めた。



ひとりで公式練習を担当することになった山本選手。持ち込みのクルマのフィーリングを確かめながら、セッティングの微調整を重ね、タイヤ選択やロングランなど、次々とプランにそって仕事を進めていく。まだ路面温度が高くないうちに1分49秒0台のタイムをマークし、その後もピットでの調整作業を重ねるなど、改善を続けた。その後、GT500クラス専有枠でアタックシミュレーションを行い、1分48秒843のタイムをマークし、10番手へ。サクセスウェイトの関係で、ワンランクダウンの燃料流量リストラクターを装着しながらも安定感ある走りを見せている。

公式練習では40度止まりだった路面温度だが、午後3時を過ぎて始まった予選になると、50度超に。GT500・Q1の出走時には、気温32度、路面温度51度のタフなコンディションとなる。アタックラップに向けてタイミングを合わせていく山本選手。チェッカーフラッグが振られる中、ワンラップアタックで刻んだタイムは1分47秒277となり、5番手に滑り込む。しかし、後続車がこのタイムを上回ったため、No.100 STANLEY NSX-GTは8番手でセッションを終えている。また、牧野選手がQ2未出走となるため、No.100 STANLEY NSX-GTは決勝を8位からスタートすることになった。予選日のテストメニューを順調にこなせたことを踏まえ、決勝での力強い戦いが期待にかかる。



ひとりで公式練習、予選アタックをこなす重責にもかかわらず、“燃リス”ダウンの車両を巧みに操り、8番手を手にした山本選手。「順調にテストメニューを済ませることができた。牧野選手からのフィードバックがない分、チームとしての戦力を失う部分もあったが、タイヤ設定、セットアップの方向もしっかりと定めることができた。ギリギリの戦いからQ1を突破できたので、非常にいい予選だった」と安堵しつつ、満足気だった。一方、予選日を“見守る”かたちとなった牧野選手は「(未出走となった) Q2のセッションを不思議な感覚で見ている」と言いつつ、「決勝は走るので8番手から追い上げます！」と躍進を誓った。



## ◎ 決勝日 :

予選日と変わらぬ暑さになった決勝日。気温は35度を下回るも、強い日差しがジリジリと照りつける酷暑での戦いは、まさにサバイバルレースを予想させた。

午後1時15分からのウォームアップ走行は、気温34度、路面温度49度でスタート。その後、スタート進行の間に気温は下がったものの、路面温度は52度まで上昇し、グリッドウォークに詰めかけた多くのファンの熱気と相まって、ますますヒートアップした。

午後2時45分、気温32度、路面温度50度の中、三重県警の白バイとパトカー先導によるパレードラップが始まる。その後、フォーメーションラップを経て77週の戦いがスタート！各車、スタートタイヤの特性の違いもあり、No.100 STANLEY NSX-GTは直後のペースアップが難しい状態。第1スティントを担当した山本選手にとっては、久々のスタートとなったが、まずは11番手でオープニングラップを終了し、粘り強く周回を重ねていくことになった。タイヤがしっかりと発動し始めると、ペースアップを果たして猛追。12周走行中には、GT300車両によるタイヤ脱輪のアクシデントが発生、約3分にわたり、フルコースイエロー（FCY）が導入された。

一方、チームは戦略として14周目終わりでピットイン。1回目のルーティン作業を完遂させ、山本選手が引き続きステアリングを握る。29周目にGT500全車両が1回目のピットインを終え、翌30周目には6番手までポジションアップ。さらに、前方の2台と4位の座を巡る縦一列の攻防戦を繰り広げると、34周目には5位へと浮上し、大いにレースを盛り上げた。レースは39周を終えると、早くも2回目のピット作業に着手するチームが現れる。No.100 STANLEY NSX-GTはライバル勢のピット作業が落ち着きを見せ始めた45周終わりで帰還。いよいよ牧野選手へと交代した。



レース開始から1時間半を過ぎると、上空に雲が張り出しているせいか、気温は32度、路面温度は42度まで下降。一方で、コース上にはこれまで周回を重ねてきたタイヤマールが散乱。また、49周目にはFCYが約5分にわたって導入された。牧野選手は、より難しいコースコンディションの中でレースウィーク初めての走行に臨んだが、スタート時と異なるタイヤを装着し、次第にペースアップ。終盤に向けていい流れを作り上げていく。54周目には、全車2度目のピットインを完了。このタイミングで8番手を走行していたNo.100 STANLEY NSX-GTは、前方車両との差を縮めるべく、次第にペースアップを見せた。また、61周目には、この日3回目となるFCYが導入され、およそ2分後に解除。依然として8番手から追撃を続けた牧野選手だが、前方車両との差は12秒超。最後の最後まで攻撃の手を緩めずチェッカーを目指す中、残念ながら逆転は果たせなかったが、8位でフィニッシュラインをくぐり抜けた。

なお、レース後に実施された車検において、2位の23号車が不合格に。これにより、No.100 STANLEY NSX-GTは7位入賞の結果を手に入れている。

搭載するサクセスウェイトによって、リストラクターの制限が設けられた車両での戦いではあったが、与えられた条件の下で出来得る限りの力とポテンシャルを発揮したNo.100 STANLEY NSX-GT。引き続き、タフな戦いに臨むこととなるが、その中でミスなく力を出し切るレースを重ねていく。



## COMMENT FROM TEAM

## ◎小島一浩監督



まずは牧野選手が無事に参戦できて良かったです。

サクセスウェイトが効いたな、というのが今大会の第一印象です。結果としてより厳しいレースとなり、7位でした。次戦のSUGO大会では1ポイントでも多く獲得し、チャンピオンシップを戦っていきたいと思います。残り3戦も、引き続き応援をよろしくお願いします。

## ◎山本尚貴選手



スタートドライバーを担当するのは久々になりました。オープニングラップで大きくポジションを落としてしまいましたが、その後もペースが良くなってきたものの、終始、前後車両との戦いが長く続くことになり、自分のペースを上げることができず、結果的に自分のステイントでポジションを落とすことにはなりました。今大会ではなかなか上手くいきませんでした。次戦SUGOに向けて、頑張りたいと思います。

## ◎牧野任祐選手



久しぶりに後半を担当しましたが、前半の状況を踏まえて、タイヤを交換することになりました。しかしながら、大きい変化にはならず、厳しい展開になりました。

ただ、そのような中でもポイントを獲得できたのは良かったと思います。次戦のSUGO大会は、チャンピオンシップに向けて大事な一戦になると思います。

気持ちを切り替えてチーム全員と力を合わせ、良いレースができるように準備していきたいと思います。